認定NPO法人 環境市民の月刊会報誌
2017年4月号 287号

みどりのニュースレター

西山・山小屋・山遊び

今月の一枚



京都の西山で環境市民が借りている山小屋は、落葉広葉樹に取り囲まれ、春の花、初夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色と年間通じて季節を感じることができます。
小屋には囲炉裏があり、毎回小屋で自炊をして飯盒炊飯や鍋を楽しんでいます。
現在は、もっと多くの方に山小屋が活用されるよう整備することが活動の中心ですが、初めての方の参加も大歓迎。「環境市民ひろば」の活動の一環である里山遊び隊、詳細は 6〜7 ページで。
（環境市民コーディネーター　竹村光世）

環境首都創造フォーラム 2016 年度 in 宇部
第２部 第１分科会「自治体のエネルギー政策交流」の報告

今年の１月に行われた環境首都創造フォーラム 2016 年度 in 宇部の第２部では、「自治体のエネルギー政策交流」「ごみ減量、３Ｒの推進」「人づくり　環境共育　ESD」の３テーマにわかれて分科会を行いました。今号では、参加者が一番多かった「自治体のエネルギー政策交流」の報告を行います。気候ネットワーク事務局長の田浦健朗さんのコーディネートのもと、まずは事例発表として、飯田市、新城市、宇部市の各自治体の担当者より、それぞれのエネルギー政策・活動内容についての紹介とそこからみえてきた成果と課題をお話しいただきました。

飯田市の報告では自治会で太陽光発電施設を設置している事例、新城市の報告では「使用年数 No.1 冷蔵庫決定戦」を例に、省エネ効果の検証を楽しみながら実践することで市民の行動変容を促す事例、宇部市の報告では石炭火力発電や新電力会社に関する話題が出ました。次に、環境エネルギー政策研究所の山下紀明さんより「自治体 PPS 調査とメガソーラートラブルへの対応～日本各地のエネルギー政策・活動内容成果と課題」と題して報告がありました。

その後の質疑応答・意見交換では、自治体 PPS を進める上で、省エネ活動と組みあわせることや発電したものを古い庁舎や夜の学校のグラウンドでの照明に使うなどの工夫ができるのではないか、メガソーラー建設や森林開発などの問題がある中で適切な許認可はどのようなものかといった議論がなされました。
特に盛り上がったのは「地域で再エネを広めるには？」というテーマで、ステークホルダーとの連携、自治体のサポート、資金調達、土地利用、NGO の役割など様々な議論がなされました。日本での再エネの議論は政治的な意味合いも強く、広く納得してもらうには「環境」の切り口だけではなく、仕事・人づくり・総合的に考えることが必要だという意見がでました。



2050 年に CO2 を 80% 減らすには、一人一人が取り組み、超えてはいけない環境の天井（しきい値）を破らないことが大切です。そのためには、トップが数字の見える化をして高い目標に向けてコミット（公約）する、自治体が使ってよい場所、適切でない場所など土地の使い方のイニシアティブをとってゾーニングすることで当事者性を高めていく、政策にとどまらず、FIT（固定価格買取制度）に頼らない電源開発を自治体間で連携して事業として取り組む、などの意見などが出ました。

行政の手法だけでは限界があり、NGO や地元の企業や信用金庫、銀行などとの連携が重要です。自治体が地元で市民発電所を進めるにあたって、パートナーである市民に対しての創業支援やエネルギー企業へのサポートが望まれます。長野県では、収益納付型の補助金制度をつくり、初期投資を行政が担保する仕組み。京都府では、工務店や電気屋さんなどに研修を行って認定し、家を建てる時など、身近な所で再エネを提案してもらう再エネコンシェルジュ認証制度があります。小田原市では、かまぼこ工場が中心になって、地元の都市ガスが連携し、再生可能エネルギー事業 を展開しています。また、小規模分散型でやることやクラウドファンディングで資金集めをすることで市民共同発電所を自分たちでやれる範囲で展開していくことができます。

発表された自治体の今後の目標として、木質バイオマスが標準となる町をめざす、市民が集まって再エネビジョンを策定する、2030 年にむけた再エネ導入指針を検討することなどが紹介されました。自治体 PPS 等エネルギー事業のさらなる普及のためは、ヒーローでなくプロでなく、少し工夫すれば普通の人でもできるようになればいいという声もありました。（環境市民チーフコーディネーター　石崎雄一郎）

消費から
持続可能な社会をつくる
市民ネットワーク

「ぐりちょ」まもなくスタートします！

環境や社会を大切にした商品を、選びやすくわかりやすくウェブサイトでもスマートフォンでも紹介し情報提供する「ぐりちょ」が、まもなくスタートします。「ぐりちょ」という言葉は、グリーンコンシューマーの「ぐ」、倫理の「り」、choice（チョイス）の「ちょ」を並べて誕生した言葉です。持続可能な消費をすすめていくには、その商品がどこで誰がどんなふうにつくっているのかを知り、よりフェアでエシカルな商品を選択することが大切です。ただ、現状はそのような商品を選びたくても情報がきちんと提供されていなかったり、どこに売っているのかわからなかったりと、手に入れようとした時に苦労することが多くあります。また、そもそもその商品の背景にどのような社会的課題があり、解決のための取り組みがされているのか、表に出てきていないことも多いのです。

ぐりちょの検索機能はまだ試験運転中ですので、改良される可能性はありますが、例えばチョコレートを買いたいとクリックすると、「生産者への配慮」「農薬・環境への配慮」にわかれて、いくつかの条件チェックボックスが出てきます。そこで、「児童労働・奴隷労働でつくられていない」「有機栽培・無農薬である」にチェックをすると、この条件に該当するチョコレートが画像でてくるようになっています。また、自分が買おうとしている商品の背景や社会的課題を知りたいと思ったときには、さらに詳しい情報が得られるような機能もついています。

さらに、ぐりちょの大きな特徴は、消費者との２ウェイで商品情報と販売しているお店情報を充実していこうとしている点です。みなさんが、まだぐりちょに掲載されていない、環境や社会を大切にした商品やお店を見つけた時、情報を送っていただければ一定の確認の後、ぐりちょに掲載される仕組みをめざしています。つまり、みなさんからの情報でぐりちょは成長し充実していくのです。

これまでにない新しいぐりちょという言葉には、私たちのふだんの買い物が商品をつくる企業へ影響を及ぼし、世界をグリーンな経済に変えて行く希望が込められています。私たちの力で実現に近づきましょう！





商品を探して入力する作業、お店を探す作業など、オンラインでどこでもできます。
ご協力いただける方は環境市民事務局までご連絡ください！

京都からはじめよう持続可能な社会へのパラダイムシフト
私たちの暮らしと SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）

ニューヨーク国連本部で 150 を超える加盟国首脳が参加した「国連持続可能な開発サミット」では「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、2016 年 1 月に SDGs: 持続可能な開発目標) が発効されました。SDGs には 17 の目標と 169 のターゲットが掲げられています。世界のマスタープランといわれ、持続可能な社会を達成するための目標ですが、実は私たちの足下である地域の課題に置き換えて考えなければならないことばかりです。例えば、地域にある自然の資源や生物多様性を考えてみても、その存在価値や恩恵をふだんから十分に意識できているとはいいにくい状況です。３月９日に京都市のしんらん交流館で行ったセミナーは、講師に国連広報センター長の根本かおるさん、損保ジャパン日本興亜 CSR 部上席顧問の関正雄さんをお招きして、私たちの暮らしと SDGs、経済活動の中で果たすべき企業の社会的責任、NGO の活動がどのように関連しているのかを多様な人々とともに学び共有する機会となりました。

先の国連ミレニアム開発目標 (MDGs) では、世界の貧困を減らすことや保健衛生、教育に関する目標がかかげられ 2015 年での達成をめざしましたが、そのプロセスでマイノリティが置き去りにされ密室の中で決められた目標と批判も受けました。そこで、SDGs は多くのステークホルダーの参画を得て議論にしっかり時間をかけつくられていきました。SDGs のキーワード「誰も置き去りにしない」は、このような背景があって生まれたのです。

講師の根本かおるさんも、関正雄さんも、SDGs の目標達成のためには積み上げ方式で考えるのではなくバックキャスティングが必要だとお話しされました。これは環境市民の活動の中で日頃から大切にしている考え方です。環境市民では将来像の実現のためには何が必要で、そのためのアプローチをどうすればいいのかを考えプロジェクトを進めています。時には周囲から無理だと思われそうなことでもバックキャストの発想で挑戦し成果を出してきました。

根本さんと関さんのお話から、SDGs の目標達成のためには、これまで右肩上がりの成長でしか豊かさを思い描けなかった経済活動のあり方を考え直し、誰でもが主体者として意識し参加できる「誰も置き去りにしない」社会のしくみ、これまでとは違った豊かさのモノサシで幸福度・充実度を計る私たちのライフスタイル、そんな大変革「トランスフォーメーション」が求められているということがわかりました。また、解決すべき目標の一つ気候変動については、単なる環境問題として捉えるのではなく、人権や貧困の問題とも関係するということを念頭に、すべての人々が取り組むべき優先課題だという指摘もなされました。ただ、日本の企業では SDGs の捉え方はまだまだプラス思考に働いておらず、SDGs をビジネスチャンスとして捉えていると考えている欧州の企業経営層が 60%いるのに対して、日本では 30%であったというアンケート結果が関さんから紹介されました。

後半の鼎談では、環境市民代表の枚本育生が加わり環境市民のすすめる「持続可能な消費」の活動を切り口に、具体的に私たちは何をするのかにも話しが及びました。これまでの「できることをする」ではなく、「なすべきことは何か」を行政も企業の側からも考え実践していく必要性も話し合われました。そして、SDGs の目標を企業の情報開示の指標として活用していくことが有効であるということから、消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワークの「企業のエシカル通信簿」の活動の重要性は益々高まって行くことを感じました。三方よしを考えた商品選択は、商品の背景に様々につながっている社会的課題に目を向けることになり、その解決にもつながります。また、そのような商品を積極的に消費者に届けることを実践している企業を応援する、そのことが私たちのライフスタイルを変え、足下から社会を変えて行く原動力になると再認識したセミナーとなりました。（環境市民理事　下村委津子）





パナソニックサポートファンドの３年間を振り返って

2014 年から３年間いただいていたパナソニックサポートファンドの活動報告会が、３月８日に東京のパナソニックセンター東京で行われ、チーフコーディネーターの石崎雄一郎が活動発表をしました。サポートをいただいたこの３年間の成果を振り返りたいと思います。

１年目　実効性の高いファンドレイジング戦略の立案と実行体制の構築

環境市民の強みを内部で再認識し、ファンドレイジングに向けての組織内合意を形成した年となりました。財政・組織体制・経営戦略基盤から課題を抽出し、実効性の高いファンドレイジング戦略の立案と試行のために、有志の理事・スタッフ・外部アドバイザーで構成される「タスクフォース」を発足、内部勉強会、理事合宿での顧客 × 事業の分析、企業をターゲットにした事業の立案、会員・寄付増、ボランティア活性化、講師派遣事業のパンフレット作成などを行いました。ファンドレイジングに関して寄付募集窓口の多様化（READYFOR?・gooddo・BOOK募金・遺贈寄付）が図られました。結果として、タスクフォースメンバーの意識変化が見られ、従来の「待ちの姿勢」だった寄付募集や講師派遣を積極的に売り出していく「攻めの姿勢」が芽生えました。

２年目　組織診断の結果を活かした、ファンドレイジングのための事業開発

具体的な事業を開発するにあたり、外部アドバイザーとして但馬武さん（パタゴニア・当時）による広報戦略立案ワークショップを実施し、WEB マーケティング、ブランディングの試行などを行いました。グリーンウォッシュ防止事業については、企業へのヒアリング、環境省との意見交換、外部アドバイザーからのアドバイスを受けました。講師派遣事業では、パンフレット、WEB 上コンテンツ、広告を活用し、PR を計画的に行いました。また、講師派遣窓口担当を決め、依頼対応や価格交渉、講演後の依頼者とのコミュニケーション、発展講座の提案を意識的に実施しました。これらの結果として、組織のブランド価値を客観的に見ること、効果的な広報のための課題を整理したこと、顧客イメージや社会ニーズの戦略を学ぶことに繋がりました。また、この年は赤字となっている部分を大幅に改善しました。

３年目　ソーシャルインパクトを出せるアドボカシー型 NGO として発展するための財政基盤と組織マネジメントの仕組み確立

サポートファンドを用いて、組織としてのグリーンウォッシュを防ぐ取り組みと仕組みづくりを提案した結果、大手流通事業者のバリューチェーン事業者を対象とした半日研修や大手家電メーカーの全社研修を行うことになりました。環境市民の主活動の一つであるグリーンコンシューマー活動・エシカルコンシューマー活動から、取り組んできたグリーンウォッシュ防止の取り組みが、財政的にも組織を支えるものに育ちつつあります。

環境マイスター研修認定制度では、マイスターにアンケート調査を行なったところ、大半のマイスターが顧客とのコミュニケーションに役立っていると回答しました。その後、自動車販売店協会とも意見交換したところ、顧客にアピールするツールや、更なる店舗での取り組み方法や環境情報を求める声が大きいことが明確になり、「環境マイスターのいる店」モデル店舗を 2017 年度からスタートし、店舗全体としての環境活動の展開、全スタッフの研修、グリーン購入とエシカル購入の拡大、顧客への多様な環境情報の提供、エコドライブの普及拡大、キッズコーナーやノベルティグッズの改善を計画しています。共通ポスターを自動車ディーラー店舗で掲示予定。また、顧客に地球温暖化の状況、影響予測、一人ひとりができる効果的な行動を伝える、デジタル及び紙媒体のツールをマイスターに提供します。

また、但馬さんより、環境市民のブランディングを行い、環境市民のコアな活動や思いを様々な場所で短いキーワードと共に伝えるコツなど今後の展開に役立ちそうなノウハウを教えていただきました。今後のさらなる組織基盤強化においては、事業の担い手の多様化、世代交代も見据えた事業継承を検討していき、2018 年度からの中期計画にも反映させていきたいと思います。（環境市民チーフコーディネーター　石崎雄一郎）

会員紹介　辻野隆雄さん（京都市東山区）



月刊誌の出版編集に 10 年近く従事した後、鴨川歩道橋反対運動の事務局への参加をきっかけに京都のまちづくり市民活動に関わり始めました。インターシティ研究会、京都みたてインターナショナル、京のアジェンダ 21 フォーラム自転車タスクチーム、京都市未来まちづくり 100 人委員会などを経て、現在はNPO 法人京都景観フォーラム理事、歩いて暮らせるまちづくり推進会議幹事、自転車まちづくり団体交流フォーラムの幹事、御堂筋サイクルピクニックのスタッフでもあります。

●環境市民との関わり

前から名は知っていましたが、「交通まちづくり研究会」出席がきっかけで事務局に出入りするようになり、引き続き「京都自転車マップ」制作や自転車チーム「ちゃり民」に加わっていたら、事務局から「そろそろ会費を払いなさい」と迫られて（？）、正式に入会。環境市民が訴える、アンチ大量消費・大量廃棄には大いに共感します。「上質なモノを選んで買い、長く使う」「無駄遣いはもったいない」という、明治生まれの祖母の生活信条の下で育てられたので、自然に馴染めますね。

●環境活動に駆り立てるものは？

徹底したクルマ優先の国造りの結果、乗らない人はガマンを強いられて当たり前、結局は街の魅力と生活の利便を殺している、という現状に疑問を持っています。京都の都心まちづくりでは、生活文化の尊重とクルマの抑制に関心が向けられています。自転車（スポルティフとクロスバイク）が日常の足ですが、「環境に良い」というより、極めて楽しく、都会暮らしに適したヴィークルですから。自転車活用も大都市では大事なテーマで、行政と市民の双方で関心が高まっていますね。大阪・堺・滋賀でこの問題に取り組む人たちとフォーラムを開催しています。

●環境市民への期待は？

広い事務所！　意見を交わし、人間関係を育てる拠点であってほしい。市民活動は健全な良識とお互いの信頼関係が何より大事ですからね。

4月 行事案内

環境市民ひろば「こもれび小屋」　山小屋活動のおしらせ

と　き：4月16日（日）　午後1時 ～4時半
ところ：西京区大原野、
大暑山中腹にある山小屋

■集合場所：阪急西院駅前　午前9時集合
人数によりマイカーにて現地登山口まで移送。
■活動時間：9時集合、集合と同じ場所で16時解散
■参加費：無料
■問合せ・申し込み：環境市民
4月14日締切

町や里は桜満開、大原野の山里には木々が芽吹き、淡いみどりと済々とした山道をたどり30分で山小屋到着です。
分担して山小屋の整備、備品製作、炊飯・調理を予定、詳細は参加人数により変わるので後報します。

映画「日本と再生 光と風のギガワット作戦」上映会＠京都
～世界が自然エネルギー100%に向かうワケとは？～

と　き：4月26日（水）、28日（金）　午後６時半～８時半（６時開場）
ところ：パタゴニア 京都 3Fイベントルーム
京都市下京区四条通立売東町23番地
・四条駅・烏丸駅の13番出口から東へ徒歩3分・河原町駅の9番出口から西へ徒歩3分
参加費：500円
申込み：各日程、定員40人。先着順
映画上映会のご希望の参加日程、お名前、ご連絡先を添えて、
気候ネットワーク京都事務所まで、FAXか電話にてお申込み下さい。
主催・問合せ：特定非営利活動法人気候ネットワーク
〒604-8124 京都市中京区帯屋町574番地高倉ビル305号
TEL. 075-254-1011, FAX. 075-254-1012,　kyoto@kikonet.org
企画・運営：気候ネットワークボランティア有志
共催：パタゴニア 京都
協力：パワーシフト・キャンペーン、京のアジェンダ21フォーラム、使い捨て時代を考える会、
環境市民、ウータン・森と生活を考える会

環境市民ひろば♪楽エコクッキング♪
～安心！美味しい！幸せ！～

と　き：5月13日(土)　午後1時40分～４時半
ところ：京エコロジーセンター　実習室Ｂエコ厨房
京都市伏見区深草池ノ内町13
参加費：2,000円
定　員：11名（先着順）
持ち物：エプロン、三角巾、ふきん、お手拭きタオル、筆記用具
講　師：環境市民ひろばボランティア　西丘裕子
プロフィール：食べる事が好きで、2005年よりイタリア料理を習い始める。
2011年家族の病気をきっかけに玄米菜食を学ぶ。正食協会師範科を卒業する。
心と身体に良い美味しい料理を研鑽中。
申し込み締め切り：2017年5月8日(月)16時まで
お申し込み・お問い合わせ：認定NPO法人環境市民　事務局
電話: 075-211-3521　FAX: 075-211-3531　life@kankyoshimin.org

「環境市民ひろば」活動の仲間募集♪

「環境市民ひろば」では、
１：お茶やお菓子と共に自由に語り、テーマを決めてイベントをつくる「ワクワクお茶会」
２：山小屋を利用した実践里山活動「里山遊び隊」
３：物事の本質を論じ合う場の「哲学カフェ」
など、様々な活動を行っています。
他にも、この場で出会った仲間で集まって、それぞれの興味に合わせて他団体の活動に参加することもあります。一人では二の足を踏むことも、仲間が増えればできることもあります。
ぜひ皆様もご参加ください。

今月のありがとう

（ご寄付） 1月26日～2月25日
合計65,666円のご寄付をいただきました。

安藤眞さん、今井れいらさん、大石康弘さん、
岡崎沙織里さん、奥瀬永子さん、小須田愛さん、
柏井紀吏子さん、金栗聡さん、川田寛子さん、
菅いずみさん、倉田聡さん、小室夕里さん、
新堂初海さん、出口裕康さん、中尾博さん、
中條恭子さん、西田孝司さん、馬場澄子さん、
株式会社プレジャーワークスさん、宮瀬美津子さん、
山岡万里子さん、山岸裕さん、山本光則さん、
山本悠久さん

（ニュースレターの発送） 久保 浩さん

ニュースレター作成ボランティア募集

（編集後記）
前月から続くニュースレター作成の混乱は、とどまることを知らず、いよいよ今月は徹夜仕事の編集部です。
深夜に響く、編集長の嘆き節「イラストレーターを使いこなせる仲間がほしいなあ。」果たして新たな仲間は見つかるのか。ご興味ある方がいらっしゃれば、ぜひ。

●編集部……石崎 雄一郎、大西 康史、日下部 伸行、
下司 智子、千葉 有紀子、向井 弘美（50 音順）

一緒にニュースレターを作ってくれるメンバーを募集しています！ご関心のある方は、環境市民事務局までご連絡ください。

ON AIR

環境を身近に感じる 15 分♪

「環境市民のエコまちライフ」

地域や世界と結びつく教育



京都府立嵯峨野高校では、約 20 年前に「こすもす科」が設置されて以来大学との連携に取組み、地域と連携した教育に取り組むようになりました。嵐山を研究フィールドとして、地域に出て、地域の課題を自分で見つけます。
「環境の中で、環境について、環境のために」
話し手：伊藤文昭さん（京都府立嵯峨野高等学校）

▼インターネットで聴けます
環境市民のエコまちライフ 検索
まずは「環境市民のエコまちライフ」で検索！
京都三条ラジオカフェ（79.7MHz）
http://radiocafe.jp/200304006/
毎週月曜日 13:00 ～（再放送は火曜 7:00 ～）

「会員になる」「寄付をする」も参加の一つです。

環境市民は、ボランティアと会員、寄付によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ応援をお願いします。

●**会員特典：** 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。行事などの参加費を割引させていただきます。環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。入会時には記念ポストカードを差し上げます。

●**会員種類：** 法人会員の他、個人会員（年会費 4000円、入会金 1000円）、シニア・学生会員（年会費 3000円）などの種類があります。詳しくは事務局まで。

●**入会申込：** 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容をご記入の上、ご入金ください。

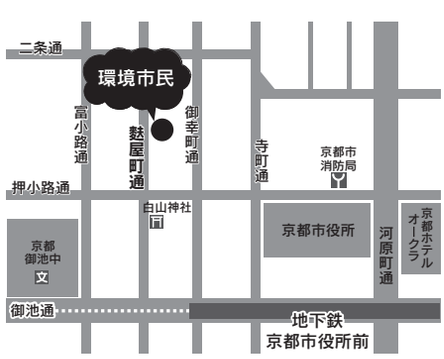
●**ご寄付：** 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上ご入金ください。環境市民への寄付は税制控除の対象となります。

お振込先： 郵便振替　口座番号　01020-7-76578　加入者名：環境市民

誰もが参加できる環境 NGO

環境市民
Citizens Environmental Foundation

TEL 075-211-3521　FAX 075-211-3531
mail life@kankyoshimin.org
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る第二ふや町ビル 206
【平日午前 10:00 から午後 6:00】
http://www.kankyoshimin.org
Twitter アカウント：　@kankyoshimin
facebook　http://www.facebook.com/kankyohsimin



（発行）特定非営利活動法人 環境市民　（代表・発行人）枚本 育生

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。「環境市民」登録商標 第4809505号